

香川の先進企業の力を探る **あの人に会いたい!**

川鶴酒造株式会社

代表取締役社長

川人 裕一郎さん

失敗を恐れず、失敗から何かを学んで一歩前進してください。行政に携わる皆さんには、逆境こそ一つのチャンスととらえ、ワクワクドキドキした日々を送ってもらいたい。そういう気持ちがないと、地域活性化は考えられないと思います。



「川の流れるごとく、素直な気持ちで、呑み手に感動を。一日の疲れを癒やし、明日への活力を見出せるうまいお酒を造るのが私たちの使命です」。平成23年で創業120年を迎える川鶴酒造6代目蔵元の川人裕一郎さんの言葉はどこまでも明快だ。ことのほか地元四国にこだわり、「四国に川鶴あり」の名声確立のため、斬新な発想で新製品開拓にチャレンジし、いかなる努力も惜しまない。どれもこれも、目的は日本酒業界の活性化。そのバイタリティーは、苦戦が続く酒造業界の救世主とも期待されている。



登録有形文化財の大正蔵

べての面で絶えず挑戦し続ける。④個人の自主性と創造力を一番に尊重する。⑤謙虚であり、誠実であること―です。

1891年(明治24)創業の老舗蔵元の6代目社長に35歳の若さで就任されました。以降「第2の創業期」と位置づけ、製造、販売、社内の意識改革に取り組んでおられますね。

御社の企業理念をお聞かせください。

5つあります。①技術と革新によって人々の生活を改善し続ける。それによって人々の心に活力と潤いを与えることが、われわれにとって一番の使命。②健全な日本の価値観をたたえはぐくみ広め創造する。③質、発想、満足度などず

クに30数年、右肩下がりが続いています。日本人独特の食生活が変わったのが一番です。食が欧米化し、しょうゆやみそなど日本特有の調味料から、スパイスなど味の濃い食が主流となりました。日本の相性が難しくなりました。日本酒の人気回復には、社内の意識改革を進め、一人ひとりが危機意識

と自主性を持っていないと時代を乗り切れません。その意味で「第2の創業期」と考えています。

御社の主力商品は、もちろん日本酒。「川鶴」「大瀬戸」「吉祥翔鶴」などの銘柄を発売されています。特に西讃では根強い人気ですが、これらの酒の特徴を教えてください。

力強さ、さわやかさが基本の奥深い酒だと認識しています。米のうまみを最大限に引き出し、地域の食に合った酒造りを目指しています。

酒造りの理念として「和醸良酒」という言葉を掲げていますが、どのような意味でしょうか。

よい酒を醸すには、蔵人が心を一つにして取り組む必要があるという意味です。社員全員が同じ目標に向かって、四国を代表する酒造りに励んでいます。

米のうまみを最大限に生かした酒造りのため、10年前から自分たちで米を作り始めたとのこと。田植えや稲刈りには地域の人々も参加しているようですね。

酒造りは米造りから。米が命です。弊社では、大野原田野々地区の篤農家の人々に契約栽培をお願いしています。農家の苦勞も喜びもともに分かち合うために、蔵のすぐ近くにも実験田を持ち、土づくり、苗づくりに始まり、田植え、稲刈りなどを行うようにしています。田植えは地域の子どもたちにも参加してもらっています。



主力商品のいろいろ



実験田の田植え